

ラドネット創立20周年記念 令和6年度第2回ラドネット研究会

日時：令和6年11月30日（土）13:00～17:05

場所：公益財団法人原子力安全技術センター 3階小会議室
(〒112-8604 東京都文京区白山5-1-3-101)
並びに、Microsoft Teams によるオンライン開催

参加費：無料

プログラム (案)

13:00 開会挨拶 山野 直樹 理事長

13:05～13:35 **RADONet 設立20年の歩みと今後の展望**

講師 山野 直樹 理事長 (ラドネット)

講演要旨：ラドネット設立後20年の活動を概観し、今後の展望について私見を交えて報告する。

13:35～14:05 **日本原子力学会遮蔽ハンドブックの歩み**

講師 上菘 義朋 氏 (RI協会)

講演要旨：「遮蔽ハンドブック」とそれに続く「遮蔽計算の応用技術」研究専門委員会は、8年をかけて27年前に刊行された遮蔽設計ハンドブックを改訂した。ここでは刊行から原子力学会「貢献賞」授賞までの経緯と、内容の変遷をもとに放射線遮蔽工学の発展を振り返る。

14:05～14:35 **遮蔽マニュアル高度化に向けた動向とMCNPを使った研究**

講師 吉田 昌弘 氏 (NUSTEC)

講演要旨：公益財団法人原子力安全技術センターで発行している遮蔽実務マニュアル及びデータ集については、発行から10年程経っている。また、ICRP新勧告の法令取入れも検討されているため、2021年からこのマニュアルデータの高度化検討会が有志により行われている。本報告では、当該検討会の状況と検討に用いたMCNP計算の一部を紹介する。

14:35～15:05 **RADONetの γ 線ビルドアップ係数の検討と標準化**

講師 坂本 幸夫 副理事長 (ラドネット)

講演要旨：ラドネット会員(含元会員)による γ 線ビルドアップ係数の評価活動に関して、1991年の米国原子力学会標準ANSI/ANS6.4.3、2013年の日本原子力学会標準AESJ-SC-A005への関与と共に、ICRP2007年勧告に沿った次期原子力学会標準の検討状況を報告する。

15:05～15:20 休憩

15:20～16:00 **2023年度日本原子力学会論文賞授賞研究紹介**

講師 丸山 修平 氏 (日本原子力研究開発機構)

Uncertainty reduction of sodium void reactivity using data from a sodium shielding experiment

講演要旨：本研究では、米国ORNLで実施された「ナトリウム遮蔽実験」の実測データを利用したデータ同化により、高速炉の炉心設計を行う上で重要な核特性である「ナトリウムボイド反応度」の核データ起因不確かさを低減可能であることを明らかにした。講演では、背景や狙い、今後の計画等まで含めた研究内容の紹介を行う。

16:00～16:30 **北海道大学拠点における先進的原子力教育コンソーシアム(ANEC)の活動の歩み**

講師 中島 宏 氏 (北海道大学)

講演要旨：原子力に係る人材育成を目的として、文部科学省の指導の基に、先進的原子力教育コンソーシアム(ANEC)が設立し、活動している。本報告では、主に、北海道大学を拠点とした、活動について報告する。

16:30～17:00 **放射線治療装置(BNCT、陽子線治療)の最前線**

講師 熊田 博明 氏 (筑波大学)

講演要旨：国内外で普及が進む先進的がん放射線治療である粒子線治療(陽子線治療、重粒子線治療)、さらに、中性子線と薬剤を組み合わせるがんを細胞レベルで破壊するBNCTの現状について、両治療施設を有する筑波大学の状況を中心に紹介する。

17:00 閉会挨拶 山野 直樹 理事長

17:05 閉会

17:30～ 懇親会(任意参加)